



2019年4月17日
パイオニア株式会社
キヤノン株式会社

パイオニアとキヤノン 3D-LiDAR センサーを共同開発 ～小型で高性能な 3D-LiDAR センサーの開発を推進～

パイオニア株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役 兼 社長執行役員:森谷 浩一、以下「パイオニア」)とキヤノン株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役会長 CEO:御手洗 富士夫、以下「キヤノン」)は、3D-LiDAR センサーの共同開発契約を締結しました。

3D-LiDAR センサーは、レーザー光で対象物までの正確な距離を測定し、遠方や周辺の状態をリアルタイムかつ立体的に把握できるため、レベル 3^{※1} 以上の自動運転の実現に不可欠なキーデバイスと言われています。パイオニアは、2020年以降の量産化を目指し、高性能で小型かつ低コストな MEMS^{※2}ミラー方式の 3D-LiDAR センサーの開発を進めており、昨年の 9 月より 2018 年モデルの提供を開始するとともに、3D-LiDAR センサーを活用した高精度な「物体認識アルゴリズム」および「自車位置推定アルゴリズム」の開発を行っています。また、自動運転事業をさらに加速するため、2019 年 1 月に自動運転に関する研究開発、技術開発、事業開発を統合する新組織を設立しています。キヤノンは、長年培ってきた光学技術基盤を多様な産業領域へ融合・拡大することを進めており、特に自動運転に代表される技術革新により急拡大が期待される自動車関連産業への取り組みを強化しています。

両社は、本契約の締結により、パイオニアが量産化に向けて進めている 3D-LiDAR センサーの開発を共同で行います。パイオニアが保有する小型化技術やデジタル信号処理技術などの車載機器開発に関する知見やノウハウに、キヤノンが保有する光学の先進技術とノウハウが加わることで、高度な自動運転車両向けの小型で高性能な 3D-LiDAR センサーの早期実現が可能になります。

※1 米国の自動車技術会 (SAE: Society of Automotive Engineers) が定めた自動運転レベル。レベル 3 は、全ての自動運転をシステム側が行うものの、緊急時には運転手が運転操作を担うという状態。

※2 MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) : 微小電気機械システム。

パイオニアの自動運転に関する取り組みについて : <http://autonomousdriving.pioneer/ja/>